

## 8 休眠期の管理

積雪の多い地域では、花芽の着いた良い新梢を折らないためにも雪害対策の必要がある。雪と触れる面を少なくするため、支柱を利用しひもで枝を束ねるが、成木では株元も太いため、支柱を使わずにそのまま結束するだけでよい。また、若木では積雪により枝が折れやすく、野ウサギなどの獣害を受けやすいので、金網などで補強する。



第II-126図 冬圃い（積雪時）



第II-127図 若木での冬圃い補強の例

## 9 施 肥

### (1) 施肥基準量

成木では10a当たり、窒素、リン酸、カリとも各々10kgの施用とする。若木では第II-137表に従い樹齢に応じて施肥量を調節する。

また、窒素はアンモニア態がよく、硫酸根を含む肥料を好む。

第II-137表 樹齢別窒素施用量

樹 齡 (年)	新植	2	3	4	5	6 年以降
施用 量 (kg/10a)	2	3	5	7	7	10

### (2) 施肥時期

4月に基肥として全量施用する。新植地では植え付け4週間後に、苗木から15~30cm離した所に施用する。植え付けと同時に施肥すると根傷みや枯死の原因となる。